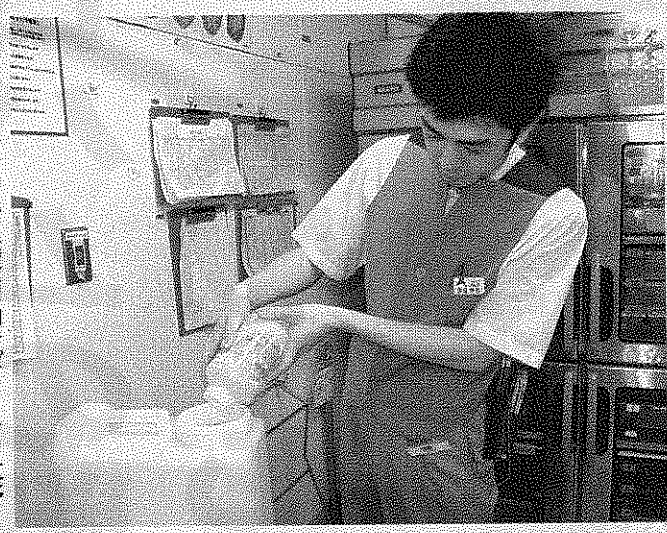
廃食用油の回収好調

バイオディーゼル燃料への再生加速



市民から寄せられた廃食用油をポリタンクに移して保管する回収拠点の担当者＝びっくりドンキー石山通り店（中央区南7西11）

札幌市

札幌市が一月から全区で始めた使用済み食用油の回収事業が好調だ。一月の一カ月間だけで千三百二十㌔が集まり、今月十九日からはスーパー十店を新たな回収拠点に指定した。市環境局は「廃食用油のリサイクルが、市民生活に浸透し始めたようだ」と手応えを感じている。（中村公美）

同事業は家庭から出る廃食用油を回収し、専門業者に委託。軽油の代替燃料「バイオディーゼル燃料（ＢＤＦ）」に再生し、ディーゼル車の燃料として利用する。

市は昨年十月から市内九カ所を回収拠点に、モデル事業を始め、好評だったことから、今年から拠点を十区の計三十一カ所に増やし、正式導入した。廃食用油をペットボトル（五百㍉㍑）に入れ、拠点に持参すると、粉せっけんなどがもらえる。

市によると、一月の回収量は、モデル事業の十二月の三カ月分（二千百八十㌔）の一カ月平均七百二十七㌔の約一・八倍。予想を大きく上回ったうえ、異物混入もほとんどないなど、排出マナーも良かった。市環境局は「市民や回収拠点となる事業者から多くの協力が得られ、環境への意識の高さが浮かび上がった」と話す。

拠点 新たに10カ所

新たな回収拠点はマックスバリュ五店など十カ所で、拠点は計四十一カ所に増えた。ＢＤＦの需要はコストと環境面からさらに高まっており、市は回収拠点を増やす方針。ＢＤＦは現在、回収拠点の業者が利用するか、委託業者が販売しているが、量がさらに増えれば、市の公用車への利用も検討する考えだ。

回収拠点などの問い合わせは市環境局ごみ減量推進課☎211・2928へ。